

人的配置について

・専門性の高い人材の配置
・人員の増加
・コーディネーターの養成。
・手立てを講じるための人的、時間のゆとりがない。
・加配教員の配置、相談体制(SC等)、SSWの配置など人的保障の拡充を望む
・支援を要する生徒の多様化に設備面、人員面、高校という枠など、よりよく思うがあらゆる面で限界があるように感じる。
・特別支援教育について、推進的な人が必要です。
・教員の担当やサポートする人員を増やす
・専門家の配置や職員数を増やすなど急務だと思われる
・支援学級の定員8名は多すぎる。

特別支援教育のあり方について

・特別支援教育は中学からでは遅すぎる。小学校から充実を願いたい。
・支援教育の仕組みや組織など複雑で一般の教員に伝わりにくい
・支援学級を作るための資料が多く、仕事量が多い。
・特別な支援を要することが特別なことであってはいけない。
・支援が必要な人が社会で生きていきやすいよう幅広い教育が必要。
・特別支援教育の取組に地域で差があるように感じる。
・大学や職場において理解教育が遅れている。
・高校教育では、特別な配慮を必要としても丁寧に細かくそれを実施するのはかなり難しく感じる。また診断等がないが傾向のある生徒への配慮がしづらい。それによって学びづらさを感じさせたり劣等感を感じさせたりしてしまっているともあると思う…。
・特別支援学級の担任をしている生徒を残して出る出張が多い。教育相談の判断が短時間の触れあいだけで出すのが難しい。
・他の業務を行いながら特別支援教育について学び実践していくのはかなりしんどい。コーディネーターの研修も2日受けましたが、他の仕事もいっぱい手が回らない。
・支援教育の更なる充実に向け、協力したい。
・日常生活レベルで手がかかる生徒の支援は厳しい。

<p>・高校の全日制の中に個別支援の必要な生徒が多く入学してきている。少人数ならもっと伸びるのにと残念に思うことがある。</p>
<p>・その子を理解し、就職にむかわせる力を付けさせきれていない。</p>
<p>・H19年度は特支元年と言われたが、その後少しずつ変わってきてはいるがまだまだだと感じる。一人一人を大切にしたい教育をしていきたいとは思っているが、手が回らない現状があり、もどかしい。</p>
<p>・教育課程、人的資源、施設など生徒の支援家庭にもよるが今の状態では対応に困難がある。</p>
<p>・特別支援教育の必要な生徒が年々増加しているように思う。不登校生とも含め、学級の中に数名おれば担任の学級経営や学年経営に大きな影響があるように思う。</p>
<p>・インクルージブ教育推進に欠かすことのできない施設・設備の充実が大切である</p>
<p>・支援が必要な生徒の情報をオープンにして自由に相談し、協力できる3体制作りと、学校の実態を把握し、適切に活動できる専門家の配置が必要かと思えます。</p>
<p>・学力や社会的自立をしっかりと指導していくのならば現在の学校のハード・ソフトとも厳しい状況です</p>
<p>・クールダウンやスクールカウンセラーとの面談、別室での個別指導に関して単位となるような法令を作ってもらいたい</p>
<p>・広く理解し、教育を充実していくための施策が必要</p>
<p>・思春期になると人の目を気にして支援に結びつかない子が多い。</p>
<p>・周囲の理解が重要。</p>
<p>・学校関係者以外の知識が乏しい。</p>
<p>・保護者の理解を深める。</p>
<p>・保護者の気持ちだけで普通科に進学を決めてしまうと一番苦労するのは生徒。</p>
<p>・発達検査の結果、数値は少し低めだが通常クラス並、発達障害等の診断もつかない生徒が数年前に在籍していた時、日々の対応や進路指導、そして何より保護者との面談に苦慮しました。</p>
<p>・指導の方向性の確認。</p>
<p>・本人、学校、家庭の連携。</p>
<p>・学校を卒業した後の支援の充実が課題としてあると思えます。</p>

研修・学習について

<p>・教職員が支援を必要とする生徒についての情報を共有することが必要だと思えます。教科担当者会議を定期的に関き、常に保護者と連携をとれる状態にあることが求められると感じます。</p>
<p>・組織的な取り組み(学校外を含む)、連携の必要性(私立高校)</p>
<p>・各校の状況実態を知りたい。交換会や研修、連絡会があればいいと思う。</p>

・評価について、教員は困難を感じている。
・生徒の自立のため自信を持って指導すること。／・プライバシーの配慮
・普通学級では授業が全くわからず、発達検査では境界で、適正就学委員会では入級に至らず、学力保障のできない生徒が出てきて、高校進学もままならない状況が出てきている。特別支援学級への門戸をもう少し開いて力をつけていくようにしていくことが大切ではないかと思う。
・特別支援担任1年目。もっと研修や相談の場所がたくさんほしい。
・管理職には意識をもって研修して欲しい。
・全職員の研修が必要。／・同じ教師ばかりが研修を受けている。
・生徒一人一人を理解し、それぞれに合った指導を考え、実践していくことが大切だと思う。
・多くの教員が支援教育について理解を深め支援方法や指導方法を適切に行えるようになること
・小学校では全担任が特別支援教育や発達障害について研修し、一定のスキルを身につけているが中学校ではまだ不十分である。なんとかその視点を持って生徒をみることできるよう研修の機会が増えれば良いと思う。
・教職員が理解を深めることが大切。そのための研修会を開き、案内してほしい(私立には案内があまり来ない)。内地留学の制度もないので、順に各校講演会を派遣していただけるとありがたい。
・発達障害に対しての理解が難しい。
・個々に状況が違うので一人一人に応じた適切な対応に困ることが多い。研修では事例をたくさん紹介してもらって指導力量を高めたい。
まだまだ理解が広がっていないと思う。壁が高い。
・実践例など、どのような取組をされているかわかるような広報誌などがあれば読みたい。
・学校教育内においては当然のこと、社会教育(家庭を含む)、企業内教育等による「障害」に対する理解の促進が大切。
・こうしたアンケートでもそうだが、特別支援教育といっても幅があって例えば身体障害者の支援と知的障害であれば答え方も異なる。発達障害に限っても知的障害の有無で支援の力点や高校を継続できるかどうか大きく違うのではないか。
・個々に応じた対応が必要になっており、知らないことが多すぎて戸惑うことが多い
・高校においても特別支援の視点を持って対処すべきことはあるので、もっと教員が勉強し、共通理解をすることが必要だと思います。

相談機関・連携について

・中学卒後の相談関係機関があまりない。
・社会人になってから本人が気軽に無料で相談できる機関が少ない。

・地域の力を最大限に活かす。

・卒業後どこの機関に引き継いだらいいのかわからない。

・京都府中丹圏域自立支援協議会が何をしているのかよくわからない。

・就労、社会的自立にむけての関係機関との連携をどの高校においてもより一層進めていくことが大切だと思います。今後ともよろしく願いいたします。

・市との連携強化をすすめていきたい。／・中学校からの情報不足。

課題について

・情報の共有化。

・二次障害とならない手立てが大切。

・最大の問題は保護者の理解度によって生徒への対応が異なってくる点である。学校は保護者を越えて指導対応する場合、余程の覚悟がなければ何もできない。法的に学校は何の権限も持ち得ていない。他の役所とは根本的に性質が異なることを保健所もご理解頂きたい。

・小学校の先生は別室学習指導のことを「取り出す」とよく言われます。特に特別支援教育の会議などでよく聞きます。支援の必要な児童生徒をまるで「物」のように言っているように聞こえて悲しい気持ちになります。もっと適切な言い方はないのでしょうか。

・小学校・中学校へ入学する際の適正な就学の実現。

・今後ますます重要性が高まると思われる

その他

・何をもち特別支援教育とするのか、特別支援教育の視点に立った取り組みと分けることがどういうことか分かりません。このアンケートは？どちらの目的か。